

まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん

まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん



2024年度 年主題くさあ、漕ぎだそう~奏でよう~

0・1・2歳児 7月主題 「きもちいいね/ぞんぶんに」

月のねがい

- ◎祈りや賛美を喜ぶ中で神さまと出会う
- ◎暑いので汗を流してもらい、心地よさを感じる
- ◎やりたいことを存分に楽しみ、そばにいる友だちの存在に気付き共感する
- ◎砂や泥、水に触れ、その感触に興味を示す

3・4・5歳児 7月主題 「こちよく」

月のねがい

- ◎賛美することや祈ることの心地よさや喜びを知る
- ◎五感を使う楽しさやおもしろさを経験し、新しいことにも挑戦する
- ◎自分の思いを表現しようとする。また思いが通らないことを経験したり、共感され安心したりする
- ◎水、泥遊びなどを思いっきり楽しみ、気持ちよさを感じる



じぶんでする ということ

6月15日(土)は子育て遊びの会、講演会およびクラス懇談会を計画しましたところ、大雨で足下も悪い中、参加いただきありがとうございました。当日は親子で身体を楽しく動かし、虫歯予防や幼児の口腔機能の発達などについての講演をお聴きいただき、またクラス単位で保護者同士の子育てに関する懇談会もありました。内容も目白押しでしたが、少しでも各家庭での子育てに関する悩みなどの解消の一助になれば幸いです。

さて、梅雨入りが発表されジメジメ、ムシムシとした日が続いております。普通に過ごしていても汗がでてしまうのに、室内でも元気に遊び回る子どもたちは、気付けば汗びっしょりになっているのが当たり前の季節になりました。朝遊びの後に服を着替え、給食の後に汚していれば着替え、また夕方まで預かりの子たちは外遊びで汗をかいていれば着替えます。毎日3着の着替えを使い切るの、子どもたちの衣服の洗濯や着替えの準備をいただく保護者の皆様には心から感謝です。水分補給のための毎日の水筒の用意も、まことにありがとうございます。

今月紹介する絵本は、ヨシタケシンスケさん作の『もうぬげない』です。自分でシャツを脱ごうとして頭が抜けなくなってしまった男の子のお話。「僕の服が引っかかって脱げなくなって、もうどのくらいたったのかしら」…なんていう独白から始まる冒頭に、子どもたちのあるあるがすぐ頭に思い描かれて、一瞬で引き込まれてしまいます。衣服の着脱を自分でチャレンジするのは自立の第一歩です。親子で読むと、より子どもの気持ちが伝わってくる作品なのかなと思います。(ブロンズ新社) 主任: 園師



もうぬげない

主任: 園師

今月の聖句 「隣人を自分のように愛しなさい」

マルコ福音書12:31
 今月の御言葉「隣人を自分のように愛しなさい」には、もう一つセットになった教えがあります。それは「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたを愛しなさい」という教えです。神を愛し、そして隣人を愛しなさい。西郷隆盛の座右の銘「敬天愛人」と一字違いますが、基本的に同じ意味の言葉です。大ヒットしたNHKの朝ドラに「おしん」という番組がありました。おしんが奉公した先の老女将役を演じた長岡京子さんという女優がおられました。彼女はクリスチャンな信仰者で、NHKの放送50周年記念として、長岡さんとおしん役の女優が対談する用意をした文章を朗読するという場面があります。長岡さんは次のようなことをおっしゃいました。愛とは何か。その先行き不透明な時代、本当に何をどうしていいかわからない。皆に言っている。そんな中で、どうしたらいいのかということをおしんに二十年以上前に会ったのです。「右を見て左を見て暗いことばっかりだけれども、でも心配いらない。恐れることはない。自分を捨ててかかると。自分の幸せを求めれば求まるほど、幸せは遠退いていく」と。これは長岡京子さんの現代へのメッセージだと思えます。「何をやるか、どういう仕事をするか、どういう役を担うか、それは何でもいいのです。大事なことは、愛を持ってやるということです」(女性精神科医エリザベス・キューブラー・ロスの言葉)。



梅雨入り宣言から本格的に大雨を迎えたのが遅かった六月。今、梅雨真つ盛りの様相ですね。梅雨明け宣言はまだですが、昨年同様、いきなり真夏の熱波が襲ってきたりして怖い。時折、コロナの感染も聞き、今後も続くことを再認識させられます。病気が暑さにも負けないよう免疫力アップを目指しましょう。

このころ、立て続けに保育者の起こした事件が世間を騒がせています。中でも、鹿児島島の件は驚きで言葉になりませんでした。同業者でもあり詳細が分からないので、安易なコメントは差し控えますが、起こってはいけない事が起こってしまったとしたら、いや、うががありません。むしろ、いつかは起こってしまうことだったのでしようか。皆様に不安な思いを与えてしままい、実に残念です。

さて、七月から八月にかけては、我々職員にとって自己研鑽の時期でもあります。コロナ禍では全く対面の研修ができず、ほぼリモート研修でしたが、最近はかなり対面研修が復活し始めています。中でも、県内の私立幼稚園の職員が千人規模で参加する教職員研修大会は大きなイベントです。今年の熊毛担当の分科会テーマは、「子どもの健康な心と身体を育む食育を考慮する」になりました。今年は姉妹園のめいろうこども園が発表を担当します。自園の特色や方針を活かした食育とは、という確認を改めて行うことは大きな意義があります。「食育」の指す範囲を広く捉え、乳幼児期の食のあり方を捉え直すことが必要です。そもそも、食育が重視されるようになった背景には、家庭や社会の変化により、従来は自然に身についたはずの基本的な食習慣が身につけていない子どもが増え、それが考えられます。健全な食生活や栄養に関する基本的な知識、さらには著しいなどのマナーが最初に思い浮かびます。しかし、それだけではなく、他の生き物の「いのちをいただく」ことも食育の大切な視点ではないかと思えます。子どもたちが、「生きる」として「生かされていく」ことを知る大切な時間です。また、保護者の皆様から食事・生活調査のご協力もいただき、園児の現状をありのままに捉えることも必要なきことだと思います。今回は、自然環境を活かした米作りや野菜作りを中心に、食に関する様々な計画を改めて見直すよい機会と捉えました。毎月の給食会議の中で、地産地消を考慮した給食メニューの研究も深めていきたいと思います。食への興味・関心につながる幼児期にふさわしい生活とは?、ふさわしい環境とは?、ふさわしい遊びや学びとは?、いつも探求し続けなければならぬものです。

いよいよ夏本番。海やプール、山や野原で走り回り、カニや小魚やカブトムシを追いかける。時にはロケットが飛んでいく姿を見上げる…。お子さんと一緒に遊びを楽しむ時間は、思いの外短いものです。どうぞ宝物のような瞬間を皆さんで楽しんでください。

学園長



7月の行事予定

4日(木)	海遊び(4・5才)・弁当日
6日(土)	お泊まり保育(年長児)
9日(火)	海遊び(2・3才)
11日(木)	7月生誕生会(2才以上)
19日(金)	市プール(3~5才)・弁当日
20日(土)	終園式(1号午前保育)
27日(土)	役員会
27日(土)	めぐみ誕生会(7・8月生)

8月の行事予定

1日(木)	夏季保育
8日(木)	8月生誕生会(2才以上)
13・14・15日	弁当日
21日(水)	夏季保育

親子で一緒に楽しい時間を!! 読み聞かせについて

読み聞かせは、絵本や本を子どもに読んで聞かせ、幼い子どもたちがおはなしの楽しさを感じるひとときです。と同時に、読んでいる大人もおはなしを楽しみ、子どもと一緒にその時間を共有することこそ、とても大切な触れ合いの時間となり、幸せを感じる宝の時間となります。

西之表市では、こども園・幼稚園・保育園から、小中高校までの先生方が集まり、子どもたちの健やかな育ちを話し合う年に3回の集まりがあります。今年度は特に『親子で一緒に読み聞かせ』をスローガンに取り組む事となりました。

「何歳から読み聞かせは出来ますか?」と聞かれることがありますが、1歳の誕生日を迎える前からでも大丈夫です。子どもは、ことばの音や、リズムを楽しむ手や足をバタバタと動かし、楽しさを表現してくれるでしょう。赤ちゃんの時から読み聞かせの習慣がつくと、大きくなって!と、自分から好きな本を持って来るようになります。



同じ本をいっしょに見ることを楽しみましょう。

持ってきたときは、時間が許される範囲で読んであげてください。好きな絵本が増えることで、楽しいが広がり、子どもの世界もひろがっていきます。

こころとことばを育てる読み聞かせ
 読み聞かせによって、大脳の感情をつかさどる部分が活発になると言われています。「読み聞かせなんてしたことないよ!」というお父さん、お母さんも是非チャレンジして頂きたいです。こころとことばが育てられ、親子での触れ合う時間は子どもの信頼関係を高め、愛着形成に大いに繋がります。

楽しい読み聞かせでこころの安全基地を!!
 大事にしてあげたいことが2つあります。ひとつは、子どもが「楽しい」と思う絵本をいっしょに読んで下さい。もうひとつはお父さん、お母さんも一緒に楽しんで読んでください。一緒に楽しんで読むことで、子どもが家庭を「安心できる場所」「こころの安全基地」と感じ、健やかな成長に繋がっていくことと思います。どうか、各ご家庭で、素敵な絵本との出会いが生まれ、楽しい時間が過ごせますように願っています。



ふれあひの時間は、子どもの家族への信頼を深めます。

園長